

各位

党派を超えて国家的課題を追求する
公益財団法人 協和協会
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田晴久
交通部会長 吉田英法
専務理事兼事務局長 清原 淳平

交通部会のお知らせ (第238回)

日時 平成28年4月26日(火) 午後1時半～3時半
場所 衆議院第二議員会館 地下1階 第10会議室
千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・南北線)①番出口より下車4分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車3分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第10会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題

- 1、最近の交通事故情勢について想う
挨拶 吉田英法部会長(元警察庁関東管区警察局長)
- 2、平成27年中の30日以内交通事故死者数の状況
- 3、平成27年中の交通事故発生状況
- 4、春の全国交通安全運動
- 5、交通事故統計(3月中及び4月25日まで)
解説 警察庁交通企画課中嶋正浩課長補佐(警視)

報告

去る3月30日開催の第237回交通部会は、吉田英法部会長が議長を務め行われました。まず、吉田部会長より、「最近の交通事故情勢について想う」と題して開会挨拶がありました。昔の交通事故原因は若者による無謀運転が主たるものであったが、最近の統計では速度超過によるものは大きく減り、むしろ高齢者による不適な運転操作などが原因となるものが比重を増してきている。例えば、歩行が困難になった高齢者でも外出できるように、適切な補助装置をつけた乗用車を開発するなど、高齢者向け対策を検討していきたい。

次に、警察庁交通局交通企画課中嶋正浩課長補佐(警視)よ

り、「第10次交通安全基本計画」について解説がありました。今回の基本計画は、平成28～32年度の5カ年にわたるもので、平成32年度までに死者数2500人以下というより高い目標を掲げる。また、平成27年中に交通事故死者数が15年ぶりに増加したこと、特に高齢者の構成比が過去最高であったこと、また、近年安全不確認や脇見運転といった安全運転義務違反に起因する事故が増加していることに鑑み、従来の施策に加え、先端技術を積極的に採り入れる。例えば、自動運転システムやドライバー異常時対応システム、衝突衝撃軽減ブレーキなどの技術が挙げられる。

次に、「平成27年中の交通死亡事故の特徴」について解説がありました。27年中に、高齢者、特に85歳以上の10万人当たり死者数は、全年齢層の平均値の約4倍以上に当たる。高齢者の事故で特徴的なのが、横断中の死者数が他の年齢層に比べ4倍以上ある点だ。何らかの違反がある場合が3分の2で、直前直後横断や横断歩道以外横断も他の年齢層に比べて際立って多い。ただし、衝突した自動車の側にも漫然運転などの原因がある。高齢者の自転車事故は、他の年代の約2倍となっている。事故原因の構成については、他の年齢層と大きな違いはない。

次に、「交通事故統計」について説明がありました。3月29日（部会前日）までの事故死者数は、916人で前年比34人の減、うち高齢者は512人で同1人の減となっている。また、2月中の死者数は261人で47人の減、1日当たりの死者数は9.0人と過去最少を記録している。

解説の後、委員一同にて盛んな意見交換がありました。○昨年10月の基本計画中間案からの変更点は、軽井沢バス事故を受けた対策と、大型車の後方確認用モニター導入の推進など、直近に起きた事故を受けての点である。○自動ブレーキ装置は、前からの衝突には働くが、横からの衝突には作動しないというデメリットがある。自動車メーカーの宣伝は盛んだが、こうした点も明らかにしておいた方がよい。○自動車教習所の教官の高齢化、低待遇ゆえの人材難などが問題になっている。

4月26日（火）の交通部会（衆2）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp